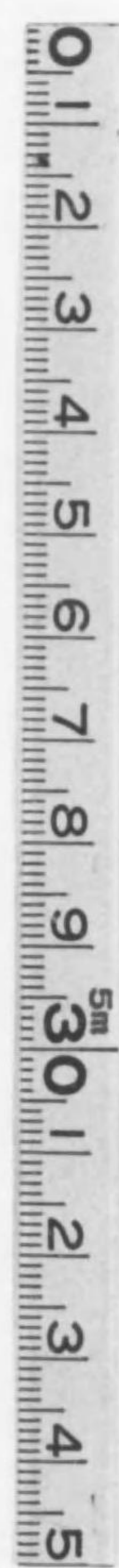


傳藤原行成曼殊院古今和歌集

301
10

帙入



始



傳藤原行成書

曼殊院古今集

釋文

全

傳藤原行成書 曼殊院古今集 解題並釋文

解題



本院は曼殊院の所藏なるが故に曼殊院古今といはれてゐる。
 一枚の長は一尺六寸内外ある料紙六枚に小片一葉を繼合はせて一巻
 となつてゐる。卷首に古今和歌集第十七雜七十首とあるのは流布本
 と同一であるが、さて其歌數は三十一首しかない。よく繼目と歌を檢
 すれば第三枚目けむけい法師のかたちこそこの歌と第四枚目の鏡山の
 歌との間には大分歌數の逸失ありと見るべくまた第五枚目で藤原興
 風の作と知られるたれをかもの歌と第六枚目貫之のあしたつの歌と
 直に接續するものといひ難く最後の料紙が小片である點から見ても
 承均法師のたかためにの歌に引續きて數々の歌があつたかと考へら
 れる。軸付紙の端に行成卿眞筆彩紙八枚、歌紙三十九首と古い書付のあるを見

れば紙數歌數共に今よりも多かつたことが判かり、別の切紙に寛文三年九月として、紙數六枚半歌數三十一首と書留めてあるを見れば、夙に現在の形に切り縮められたのに驚く。かやうに時を異にして嚴重に紙や歌の數を注記するのを見ても、其の一紙一首の存亡が如何に注意せられたかと思ひやられる程、此集が尊重せられたのである。その料紙が茶色草色水色ととり／＼に美しいのみでなく、草假名の柔かな筆の運びが巧なうねりをなして絶えざること、縷の如しともいふべき纖麗のかざりをつくし、昔も今の如くに否今よりも一しほ其の美に魅せられたであらう。かくまで草假名が婉美の態を極むるに至つたのは藤原末期としか思へぬが、前に述べた如く行成筆との古傳説のあるのは、恐く筆蹟の美を尊重するのあまり、此名人に假託したのか、然らざれば何處かに行成様の彷彿するのを看取したものか。他に古今集で行成筆と傳ふるものとも書風を異にし、また行成の日記權記に見る筆蹟

とも違ひ、自らこれ行成筆の古傳説を有する一種獨特のものといはねばならぬ。卷末に

新院御本自勝淨

僧正至勝穢十三代相傳

其後爲妻女被讓畢

正安第一之曆孟秋初□之□

右金吾記

とある。新院とは順徳院の御事であらう。正安元年七月に於ける右衛門督といへば藤原教嗣の男嗣實より外に考へられない。かく相傳の始末を奥書とするだけまた本集の尊重せられた所以が窺はれる。因に本卷は大正十四年四月國寶に指定せらる。(國寶全集抜萃)

釋文

古今和歌集卷第十七

雜 七十首

わ可^かうへ爾^に露^つ會^ひお
久^く那^なるあま農^の川^が
東^とわ多^た流^る布^ふ彌^み農^のか
伊^いのし川^が具^ぐ賀^が
於^おもふとち万^まとる
せるよは可^からに志^し
き堂^たま^まくをし支^し
母^はの爾^にさ利^りける
う禮^れしきをなに

爾^につ希^げてむ可^から許^こ路^ろ
裳^もた毛^もと遊^あ多^た可^か耳^み
堂^たてまし母^はのを
か支^し利^りなきみ駕^が
堂^た免^め爾^にと乎^や流^る花^は
はと支^し母^はま多^たぬ
母^はの爾^に會^ひあ里^り希^け類^る
むら佐^さきの悲^ひと母^は東^と
遊^あへ爾^にむさしの
久^く佐^さ者^はさ那^な可^から阿^あ盤^は
連^れと會^ひ於^おも布^ふ
む羅^らさ支^しのいろこ支^し
な利^りひらの朝^あ臣^{しん}

時^{とき}農^{のう}め毛^{のけ}はる耳^{みみ}
能^{のう}なるくさ支^し无^む王^{わう}か
連^{れん}千^{せん}利^り遣^{けん}理^り

右大臣

い路^ろなしとひとやみる
らむ、閑^{かん}しよ利^り布^ふ
かきこゝろ爾^に曾^{そう}め氏^し
志^し母^ぼのを

み者^みるの佐^さ堂^{たう}のり

ふしきき農^{のう}母^ぼ利^りの
わ多^た利^りをうちす支^して
み可^かさのやまに王^{わう}れ盤^{ばん}
き爾^に希^き利^り

業平朝臣

おほ者^{しや}らやをし本^{ほん}
能^{のう}やま農^{のう}けふしこ
曾^{そう}可^かみよ農^{のう}ことを
おも悲^ひ志^しるらめ

よし見^みね農^{のう}む年^{ねん}
佐^さ堂^{たう}

あ万^{まん}つ可^かせ久^く母^ぼ農^{のう}可^か
よひち布^ふきとちよ
を^をと免^{めん}農^{のう}す可^かた志^し
はしごゝめむ

可^かはらの右^う大臣^{だいじん}
ぬしや堂^{たう}れとへと

志ら堂万い者那具に
 さらはなへ氏や阿
 者れ東おも者無
 東しゆ支の朝臣
 多万堂れのこ可めは
 いつこ遊る支農い所
 能な身わ希於き爾
 移氏爾希利
 けむ希意法師
 か堂ちこ曾みや万駕
 久れ農久ちきなれ
 ころ者那爾那さ
 はな利難無

閑身や万いさ多ちよ
 里て見氏遊可む
 東し遍ぬるみはお
 伊や志ぬる東
 なりひらのは
 おいぬ連はさらぬ王可
 禮毛あ里て遍はいよく
 み万くほしき
 見可那
 可へしな利悲ら
 よのな可にさらぬわ可
 連農那久毛可那ちと
 世東い者不飛と農こ

の堂め
志らゆきのや遍不利
新希る可へ流や万可
遍流 / 母お意爾け
類可那
於意ぬとてなと手
わ可身越せめき遣む
お伊すは希不爾あは
まし母の閑
ち者や不るうちのは
志母りなれ乎し會
あ者れとはおし遍と
志のへぬれ盤

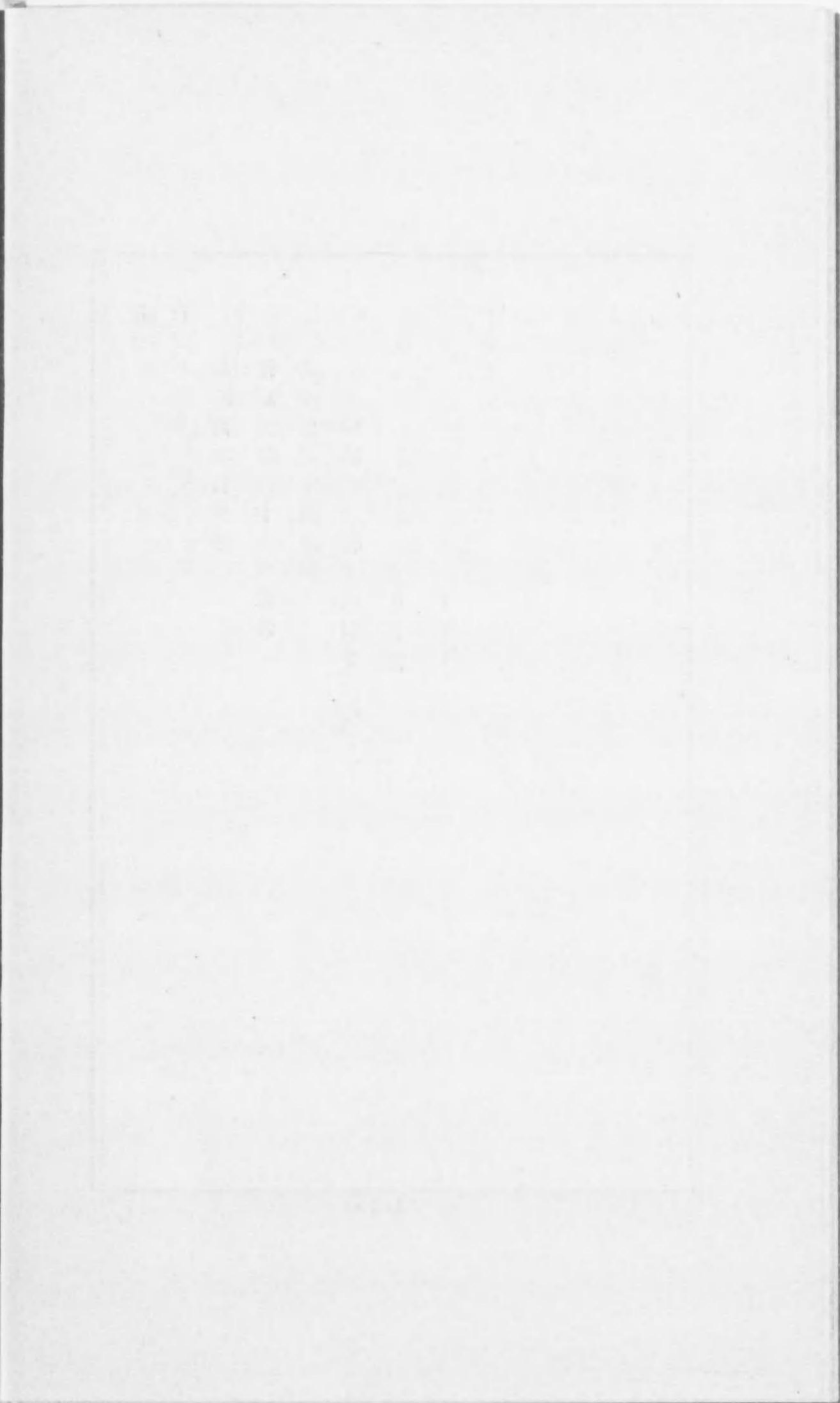
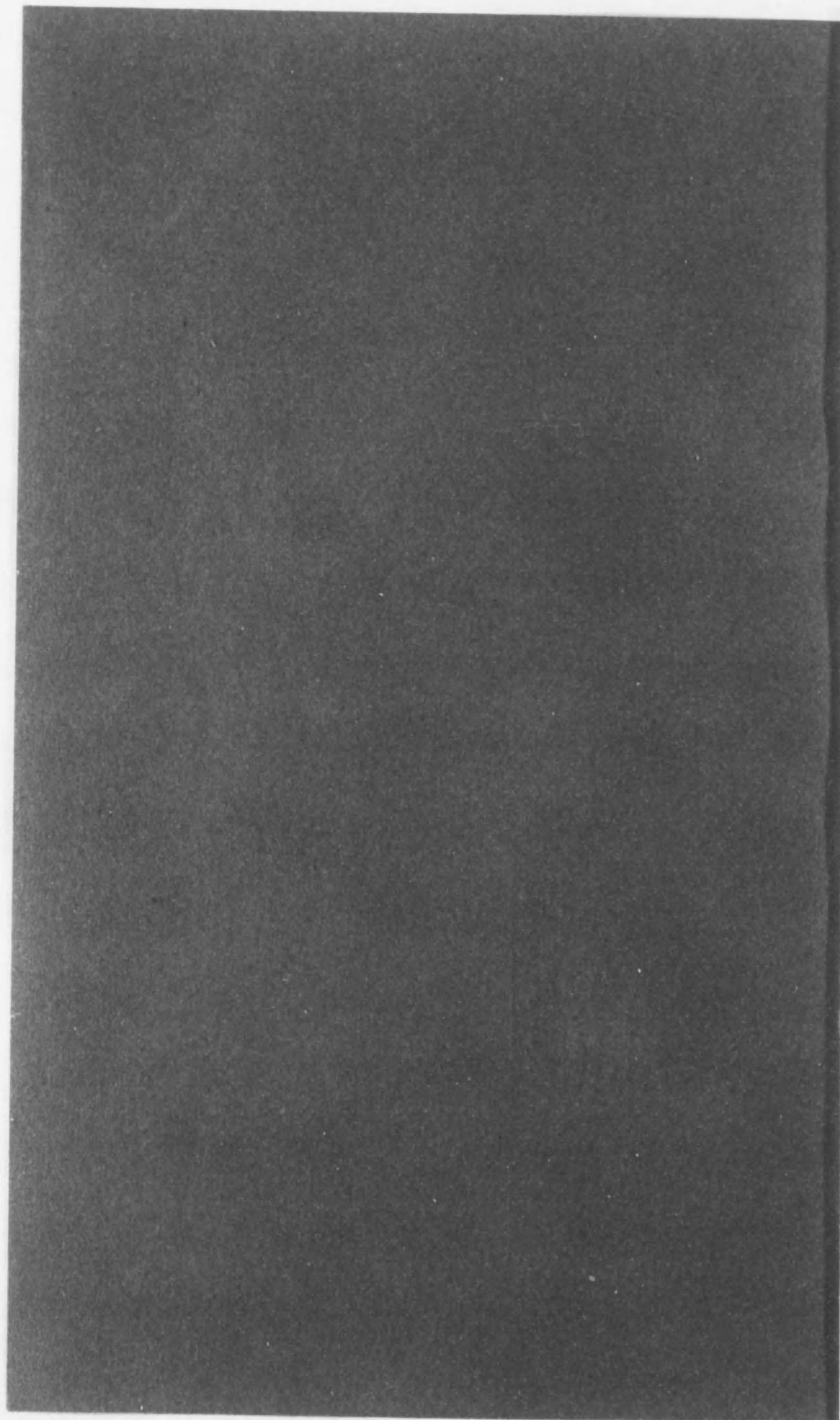
王れ見氏母悲さ志
久那里ぬすみよし
の支しのひめ万つ伊
久よへぬらん
すみよしのきし能
悲めまつひと那久は
い久よ可遍し東、不
へきもの越
あつさ遊身い會遍の
こ万つ多可よに可よろ
徒よ可ねて堂年を
万き遣む
可せ不希はなみこ

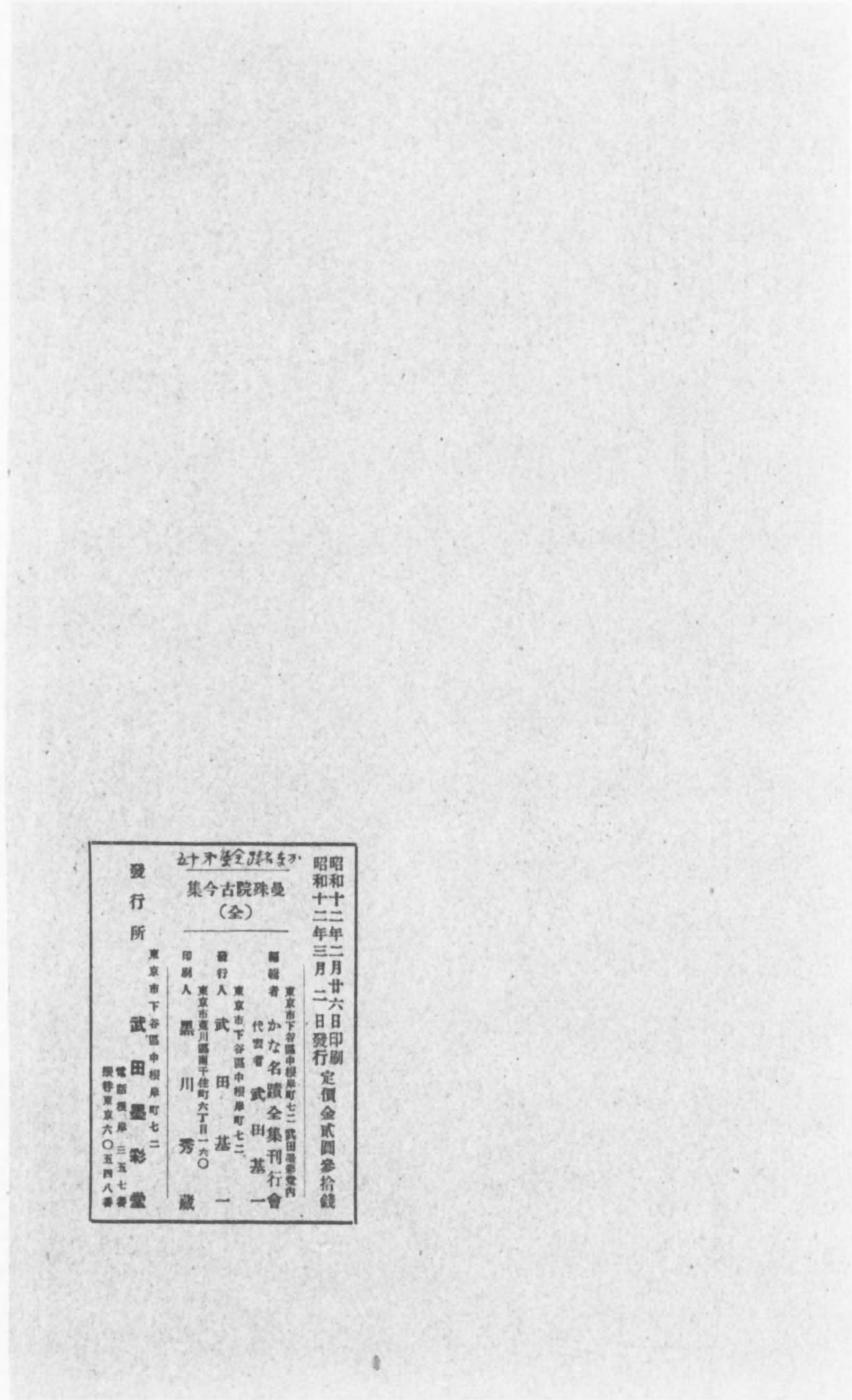
すい曾能所なれ万つ年
爾あら者れてなき
ぬへらな利
か久し徒よをや徒
久さむ堂可さこのを
能遍爾た氏る万つなら
なくに
堂れを可无志る悲とに
勢む多可さ故農万つ
毛む可しのと毛那ら
難具に
貫之
あし堂つ之多氏る

可者へを婦く可せ二
よせて可へらぬなみ
可と曾見流
みつのおも爾う可へる
布ね農きみならば
こ、曾と万利といは万
志母のを
志む世意
ほうし
宮こ万て悲支こ
遊る可らことはなみの
をす希て可せ曾ひ
きける

お利^り者^はらの遊^{あそ}支^きひら
 こき^ちらす多^た支^きの志^しら
 堂^だ万^ま悲^ひろひお^てき^て
 よのう^きと支^きのな^み多^た
 耳^み曾^そす流^る
 な利^りひらのあ曾^そん
 ぬき^み堂^だる悲^ひとこ曾^そ
 ある^らしし^ら堂^だ
 まを^ま那^な久^く毛^もち^るか
 そ氏^てのせ^き爾^る
 堂^だ可^か多^ためにお利^りてさら
 せるぬ^の那^な連^れはよ^を
 遍^へて見^みれととる悲^ひとの

なき
 行成^{ぎょうせい}卿^{きやう}眞^{まこと}筆^{ひつ} 影紙八枚
歌數三十九首
 新院^{しんいん}御^ご本^{ほん}自^じ勝^{しょう}淨^{じやう}
 僧^{そう}正^{しょう}至^し勝^{しょう}穢^{たい}十^{じゅう}三^{さん}代^{だい}相^{さう}傳^{でん}
 其^{その}後^{のち}爲^な妻^{めかけ}女^{むすめ}被^か讓^ら畢^ま
 正安^{しょうあん}第^{だい}二^に之^の曆^{れき}孟^{もう}秋^{しゅう}初^{しつ}日^{にち}之^の候^{こう}
 右^{みぎ}金^{かね}吾^{われ}記^き





昭和十二年二月廿六日印刷 定價金貳圓參拾錢
 昭和十二年三月二日發行

不名全集二十卷
 曼殊院古今集 (全)

編輯者 武田基一
 代售者 武田基一
 發行所 東京市下谷區中根岸町七二
 印刷所 東京市下谷區中根岸町七二
 印刷人 黒川秀藏

發行所 東京市下谷區中根岸町七二
 電話 東京六〇五五七
 東京六〇五四八





古今和歌集 卷第十七

雜 二十

わづらひしつゝのほろろお
らむらあまのなを川
よわいふかきゆらか
伴のいりやう

不しつゝこゝろ
ていよはつゝに
そららちちてい
あつちちけい
うぢつゝこゝろ
うつちぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢ
かぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢ
あぢぢぢぢぢぢぢ

わんぱくあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび

あそびあそびあそび

あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび

あそびあそび

あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび

かゝるいふものさうさう
えぬのさ

ふらふらのほらあり

うししししししし
うししししししし
ふらふらのほらあり

業平 卯五

おほきしししし
おほきしししし
ふらふらのほらあり



アハハハハハハハ

よーんねんねん
アハハ

あーんねんねん

ようんねんねん
アハハハハハハハ
アハハハハハハハ
アハハハハハハハ

アハハハハハハハ

アハハハハハハハ
アハハハハハハハ
アハハハハハハハ
アハハハハハハハ
アハハハハハハハ

154 〆ー〆 親と

ニッポロにのゝるちは
じいじいおききいおききいお
ハニッポロにのゝるちは
神々々々々々々々々々々々

155 〆ー〆 親と

からからからからからから
からからからからからから
からからからからからから
からからからからからから
からからからからからから

あつちのこゝろに
あつちのこゝろに
あつちのこゝろに
あつちのこゝろに
あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに
あつちのこゝろに
あつちのこゝろに
あつちのこゝろに
あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに

あつちのこゝろに



ま〜ゆ〜みのかゝるち
彩もき〜るはか
色は〜し母は〜るは
た〜れ

た〜る〜る〜る〜
ち〜ん〜ん〜ん〜ん
お〜ん〜ん〜ん〜ん
ま〜の〜系

ら〜ん〜ん〜ん〜ん
ま〜ん〜ん〜ん〜ん
あ〜ん〜ん〜ん〜ん

まのいぬにま

まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま

まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま

まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま
まのいぬにま

貫之

玉一平らの一々
うらまひのせし
よせしうらまひ
うらまひのせし

伊勢

あめつちのうらまひ
あめつちのうらまひ
あめつちのうらまひ
あめつちのうらまひ

あめつちのうらまひ

あめつちのうらまひ
あめつちのうらまひ
あめつちのうらまひ
あめつちのうらまひ

行厥心直筆下

於件八枚

考較三十九首

新院御本自勝字

備正至勝概十二代相傳

其後為妻女被誅等

二名才一之唐子孟秋抄口之原

友上五記

301
10

昭和十二年三月廿六日印刷 定價金貳圓參拾錢
 發行所 東京市下谷區中根町七二 武田墨影堂
 集今古院殊曼
 編輯者 武田墨影堂
 代售者 武田墨影堂
 發行人 武田墨影堂
 印刷人 武田墨影堂
 東京市下谷區中根町七二
 電話 三三七
 電報 六〇五五八

終